

平成22年8月4日

北九州市長 北橋健治 様

学園&地域交流ネットワーク
代表 竹下 秀俊、会員一同



『歴史遺産・北九州市レトロ観光地』の提案

(折尾6連・赤煉瓦アーチ高架橋の保存活用をお願い)

猛暑の候、ますますご清栄のことお慶び申し上げます。

当会は、折尾駅前の「オリオンプラザ第1ビル」1階で、無料休憩所と交流の場として『ゆめ広場』を民設で運営しており、学生や高齢者を中心に、数多くの方が利用され喜んでいただいています。

先日、「オリオンプラザ第2ビル解体のお知らせ」がポストに入っていました。

以前、「オリオンプラザ第2ビル」と「折尾駅側の赤煉瓦高架橋3連」は一緒に取壊すと聞いていましたので「折尾総合整備事務所」に確認しましたが、詳しいことを教えていただけませんでした。

「6連・赤煉瓦アーチ高架橋」は、下記のような素晴らしい価値があることが、先月解りました。

- 1) 「土木学会」では、『有形文化財に値し、土木技術史の教科書的存在であると同時に、北九州市の近代化の歴史の記念碑的な構造物』と評している。
- 2) 大正期の長大な赤煉瓦アーチ橋は、東京駅付近と折尾のみで、かなりの希少価値である。
- 3) 幻の工法の『ねじりまんぼ』は、日本最大級で、現在、作れる人は一人も居ない。
- 4) 通常のトンネルと『ねじりまんぼ』の交差は折尾のみである。

5) 「北九州線」と呼ばれ、50年後に、この沿線を中心に5市合併し『北九州市』が誕生した。

取り壊すと、二度と復元できません。

是非、保存活用を検討していただきますようお願い申し上げます。

折尾と同年に作られた、東京駅付近の赤煉瓦高架橋は、店舗などに活用されています。

折尾駅は交通の要衝で、「電車やバスの乗り継ぎ時間」が生じますが、安心して休憩できる場所も、洋式トイレも、オムツ替えなどする場所もありません。

この状況を見かねて、飲食が可能な無料休憩所「ゆめ広場」を私たちは開設しました。

約5年間運営して、これらの必要性を、日々、切実に感じています。

「ハートフルな街づくり」にするためにも、是非、赤煉瓦高架橋の活用をご検討ください。

更に、木造2階建て駅舎は、九州では、「門司港駅」と「折尾駅」のみで、北九州市の東と西に位置します。折尾駅前の、とても狭い駅前広場に面して、歴史遺産として、近代化産業遺産の「堀川運河」、「6連の赤煉瓦高架橋」、「折尾駅」があります。

折尾駅舎の解体が延期されましたので、西鉄電車ビルだけ取り壊すと、6連の赤煉瓦高架橋の立派な姿と、折尾駅舎を道路の中央にした姿を見ることが出来ます。この風景は、人に感動と癒しを与え、住む人の誇りを保ち次世代に継承できる、折尾らしさのある魅力的な街になります。

この機会に、折尾の「文化や歴史」、遠賀の都として栄えさせた「先人の知恵や想い」を伝えることは、今からの折尾の街の繁栄につながります。

来年2月の「鉄道開通120年イベント」には、多くの人々が訪れることが見込まれています。

折尾駅の日本最古の立体交差も、赤煉瓦の連絡通路も、ホームの古レール支柱も、駅構内の迷路も、堀川運河沿い飲食店も、角打ちの酒屋等も、『同時に見ることができるのは、本当に今だけ!』です。

現在、折尾は開発の途中で街が衰退していますが、『今しか見られない!』をキーワードに120年イベントで「折尾駅舎と6連の赤煉瓦高架橋の全景を中心とした歴史遺産」を広報することで、全国より数多くの方が折尾を訪れ、街が賑わいます。

「東の玄関口・門司港レトロ」のように、折尾を「西の玄関口・折尾レトロ」として整備すれば、「若松レトロ」を含め、北九州市全体が、日本を代表する『歴史遺産・北九州市レトロ観光地』になります。折尾の開発後、「赤煉瓦高架橋」は、南口駅前広場への出入口のメイン道路の左側に3連、右側に3連と位置し、パリの凱旋門のように『歴史遺産・北九州市レトロ観光地』に人々を出迎える「西の玄関口」となります。

それを実現させる為にも、是非、「6連の赤煉瓦高架橋」の保存活用をお願い申し上げます。